

令和 3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900055	事業の開始年月日	平成19年7月1日
		指定年月日	平成19年7月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜小机		
所在地	(〒222 -0036) 神奈川県横浜市港北区小机町2170		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2ユニット
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年11月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>昨年の事業所目標「統一してみんなでスキルアップし、同じレベルの介助をしたい」が、コロナ禍のため研修に参加できなかったため、今年も同じ目標で実践したいと思います。</p> <p>事業所内では歯科衛生士さん等から、歯磨きやオムツのつけ方などの指導を受け、みんなのスキルがアップすればと考えています。</p> <p>毎月、健康増進課より指導者が来ていただき「あんしんヨガ教室」「NŌAエクササイズ」「リズム体操」の指導を受けて、身体を動かしていますが、コロナ禍のため、現在は2か月に1回に減りました。このため来られなかった分は、リモート運動教室に参加して、月2回の指導を受け身体を動かしています。</p> <p>さらに今年はコロナ禍の結果、入所者への面会やボランティアとの交流など、外部の方の入館に制限がありますので、家族が参加する行事は難しいですが、職員と利用者で毎月皆様が楽しめるような行事を開催しています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年10月14日	評価機関 評価決定日	令和3年11月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇コロナ禍における室内運動会と運動教室</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で面会や外出が難しい現在、当事業所では室内での運動会を実施し、また運動教室を開催している。非日常的な活動や運動を行うことで、利用者の健康増進だけでなく、精神的なケアにも繋がっている。・室内での運動会では、利用者が、開催宣言をした後赤白の鉢巻をつけて、パンク食い競争や玉入れを行っている様子をブログで知ることができる。・一方、運動教室は、法人本部の運動プログラムを使い、2か月に1回、本部のインストラクターが来所して行うほか、月2回のリモート体操（リズム体操やヨガ教室等）も実施している。 <p>◇虐待防止への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・「虐待ゼロへの行動指針」を事務室等に掲示し、毎日の申し送り時に、やってはいけない行動と言動（命令口調、無視、無理強い、扉開放の排泄介助）とやらなければいけない行動と言動（職員同士の注意、気遣い、支え合い）を読み上げ確認を徹底して、虐待が見過ごされることがないように取り組んでいる。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇利用者の日常生活の様子をブログやお便りで家族へ発信</p> <ul style="list-style-type: none">・ブログを月8回以上更新するほか、施設行事の様子や個人写真・コメントなどを掲載したお便り「一言通信」を毎月家族に郵送して、利用者の様子を伝えている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜小机
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示して、毎日申し送り時に会社とホームの理念を斉唱することによって、理念の意味を確認し実践に繋げている。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の理念と事業所理念に則り「統一してみんなでスキルアップし、同じレベルの介助をしていく」との事業所目標を定めて、ケアを行っている。 ・研修の実施や介護技術を教え合い全ての職員が、目標とするケアが行えるよう努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の情報を得ている。今はコロナ禍にてオレンジカフェや体操教室など近隣の方々に参加できない状況である。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前は、カフェや体操で地域の方が来所し、また、利用者が地元の方の夏祭りに参加するなどの交流があったが、現在はほとんどない。 ・職員は、こうした状態をコロナ禍における課題と認識しており、交流のあり方を模索している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナウイルス禍のため、外部からの面会が中止になっておりできていない。ブログなど掲載して認知症の理解に活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行っていましたが、今はコロナ禍の為開催が出来なく、情報を2ヶ月に1回郵送して意見や情報を返信して頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はコロナ禍のため、運営推進会議は書面会議で行っている。家族会代表、町内会長、民生委員、区担当課、地域包括支援センター職員に、2か月ごとに活動報告書を送付している。 ・報告書には、利用者状況、施設の活動状況、事故等が記載されている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者とは、利用者が受診の時に医療関係者との連絡をお願いしている。毎月地域包括支援センターから案内などが届き参加することもある。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の高齢障害支援課とは運営推進会議の報告時に、生活支援課とは生活保護者の定期面談時に、電話連絡や情報交換を行っている。 ・区のグループホーム協議会やケアマネ連絡会に参加し、協力関係を築いている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に1回、身体拘束廃止委員会を開き研修を行い理解を深めている。毎日の申し送り時に身体拘束が必要な要件と身体拘束による3つの弊害を読み上げて理解を深めている。職員同士、声を掛け合い拘束をしないケアに取り組んでいる。	・2か月ごとに身体拘束廃止委員会を開催し、年2回研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・研修では、本部マネージャーが参加することもあり「身体拘束禁止のための指針」の理解度テストを行い、意見交換が行われている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月ごとに虐待防止委員会を開催し、会社からの研修テーマで研修会を行って職員同士話し合い各フロアの問題の解決に向けて話し合っている。「虐待ゼロへの行動指針」を事務所に掲示し申し送り時に読み上げ、常に虐待への意識を持ち続けるようにしている。	・2か月ごとに虐待防止委員会を開催し、セルフチェック表を活用するなど、職員研修を定期的に行っている。 ・職員が不適切と思われる対応をしたり、発言を聞いたときは、その都度職員間で注意し合うことを徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいるので一応理解はしている。研修の機会があれば勉強したいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理宇社の入居時に契約に関する説明を管理者が行っている。入居後の流れから退居に関する説明も行い、疑問や質問などはホーム長又は本部の担当者が対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今はコロナ禍のため面会も中止し家族会も開催できない状況なので、情報やアンケートを郵送して意見を返信していただき、運営に反映させるようにしている。介護計画作成更新の際は家族の意見を聴きその意向を取り入れている。	・家族会は従来年2回開催してきたが、今年は10月開催の準備をしている。家族からは、散歩や外に出る頻度を増やして欲しいとの要望を聞いている。 ・介護計画更新の際に電話で家族の意見を聞き、計画に反映している。	・コロナ禍で、家族との接触が少ない状況ですので、「家族アンケート」を実施して、家族の意見や要望を事業所の運営に反映させることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で、本部で開催されている事業所会議での内容は職員に伝えるべき事柄は周知徹底するようにしている。全体会議や各フロア会議で意見交換し運営に反映させるようにしている。年に2回職員と面談を行っている。	・毎月の全体会議やフロア会議で、職員の意見提案を聞き、運営に反映している。また、ホーム長は、本部での事業所会議に出席し、意見交換を行っている。 ・個人面談を年2回行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無駄な残業をしないよう努めている。年に2回面談や人事評価を行い職員の努力や勤務年数や提案して結果を出したものについて表彰する制度もあり、やりがいに繋げている。	・ホーム長は、年2回職員と面談し人事評価を行っている。 ・勤続年数や人事評価で努力を認められた人に対し、表彰制度がある。 ・実務者研修受講料支援や介護福祉士資格取得の受講料割引、合格祝い等の制度があり、職員の向上心に繋げている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修は順番に受講するよう調整し、初任者研修や中堅職員研修、実務研修など各自にあった研修に受講できるようシフト調整をしている。事業所内で口腔ケアの指導など研修を行い、皆でスキルアップを進めている。	・本部の「人材開発センター」では、キャリアパスを活用した制度や全事業所が参加する研修制度を運用し、人材育成を図っている。 ・ホーム長は、シフト調整や他職員の応援協力を得て該当職員が研修受講できるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市高齢者グループホーム連絡会に加入して、連絡会や研修に参加している。小机地域のグループホームとの連絡会にも参加して情報共有を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行いご家族と本人と直接話しをして、ご意見を伺いプランにも反映させ安心して生活出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族が困っている事、不安な気持ちに寄り添い聞き取りを行い問題点をケアプランに上げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1か月は実調や資料により暫定プランで支援し、その後問題点を見極め必要に応じてリハビリなどサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点から、できることは自分でやっていただき、お手伝いをしてもらったり、レクに参加したり会話を楽しむことで仲良く生活を共有できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月様子を「一言通信」を家族に郵送したり、電話や来設時に伝え、ホームのブログを更新して、様子が分かり安心してもらっている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ禍にて、面会も中止でお会いする機会が少ないが、感染防止をしながら電話や遠隔面会を勧めたりガラス越しでお会いするよう連絡を取るようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のこれまでの馴染みの関係については、入居時に把握して情報を共有している。 ・現在は、原則面会禁止だが、玄関ガラス越しでの面会や、孫のフォト結婚式に参列するために短時間帰宅を認めるなど工夫して、従来との関係が継続するよう努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えをして皆様と交流できるようにしている。トラブルがないように注意をしている。月に1回、1 & 2階合流で好きなこと（塗り絵やカラオケ）をできる時間や、毎日体操・レクの時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に家族から相談や連絡があるときは、可能な限り対応し、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の気持ちや希望を察し、月1回カンファレンスで、困ったことは、その都度検討をしている。日頃の会話から本音を言われることが多いので、気付くように心がけている。	・日常生活の中で、利用者の思いや意向を聞き、個人連絡帳に記入し、職員間で情報を共有している。 ・利用者と職員間でコミュニケーションを頻繁にとることが、思いや意向を把握する基本と考え、実践するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から情報を得て把握し、できるだけ好みに合った生活ができるよう支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送り、健康管理表などは、1人1人の状態を共有して把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者には、居室担当者がつき、定期的にカンファレンス、モニタリングを行い本人の状態を把握し、本人と家族の意向を聴き結果をケアプランに反映させている。	・介護計画は6か月ごとに作成し、3か月ごとに見直している。体調変化があれば随時見直している。 ・介護計画は、モニタリング結果を基に、計画作成担当者を中心に全職員でカンファレンスを行い、医師・家族等の意見・意向を聞き作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や医療連絡帳等に記載されている情報を共有し、実践から見えてくる事項をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに合わせて、訪問リハビリやマツサージなどを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアの方に来てもらい、お話やゲーム等で楽しめるよう支援しましたが、今はコロナウイルス禍できないため、利用者と職員で2か月に1回、おやつレクや季節の行事を行い楽しめるよう支援をしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は全入居者が利用している。内科医と歯科医の診察が月2回あり、異変時には24時間可能なオンコールで、適切な相談と指示が受けられる。専門医への通院は家族が同行し結果は事業所で受け取り共有している。	・全利用者が事業所の協力内科医と歯科医をかかりつけ医としている。協力医とは24時間体制で適切な医療が受けられる。専門医への通院は家族対応を基本としているが、職員が付き添う場合もある。看護師の訪問もあり、健康管理に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携室の看護師が週1回健康管理を行い、入居者の状態を診てくれている。連絡ノートに看護師・職員が状態を記入し互いに情報を共有できるようにしている。看護師の判断で医療関係者に連絡、相談も行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホーム主治医から情報提供書を、ホームからはサマリーを提供し、入院中の治療に役立てている。見舞い時病院側からの情報がもらえる時は退院の時期などの相談や、退院後の相談などを貰うようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の家族の考えをお聞きしている。担当医師からご家族に説明があり、ホームでの対応をご家族に話し終末に向けてのケアプランを作成して、スタッフ一同支援に取り組んでいる。	・入居時に「重度化した場合の対応指針」に基づき、事業所の方針を説明し同意を得ている。 ・今年度事例はないが、重度化し看取りを希望する場合は、「看取り介護指針」や「看取り介護マニュアル」に沿い、計画を作成し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はマニュアルに沿って、皆が同じ対応ができるようにしている。AEDを置き、年に1回消防署員により心肺蘇生法、AEDの使い方などの訓練があり身に付けるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度避難訓練を消防署員から指導を受けている。月に1回ミニ水害訓練を行っている。 繰り返し行うことで避難方法を身に付けられる様努めている。	・消防署の協力を得て、年2回夜間を想定した避難訓練を行っている。地域性に配慮し、ミニ水害訓練は毎月行っている。法人主導の安否確認システムの応答訓練も定期的実施している。 ・食料等の備蓄はリストにより保管・管理している。	・飲料水や食料品の備蓄は、3日分程度を確保するとともに、賞味期限の適切な管理が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議で接遇の大切さを話し合い、言葉遣いや態度など、常に自覚し職員が互いに注意し合える様努めている。毎日の申し送り時「やってはいけない行動・言動」「やらなければならない行動・言動」を読み上げ確認しあっている。	・事務室に掲示した「やってはいけない行動・言動」「やらなければならない行動・言動」を毎日読み上げ意識を高めている。 ・気になる対応が見られた場合は職員同士で注意しあったり、会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を見ながら訴えを察知したり、話しかけられたら傾聴する心のゆとりを持つ努力をし、信頼関係を築き、気持ちを引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中で食事時間など決められていることはかなりあるが、基本以外は自由に過ごせる環境と自由に話せる環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時髪にブラシをかけるよう声掛けして身だしなみの支援をしている。洋服はご自分で選ぶことを心掛けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューをフロアに貼りだし嚙下体操の後、献立を伝えている。テーブル拭きから箸並べ、食器拭きなどできる方が協力して食事を楽しむようにしている。季節のおやつ作りを行い楽しさも提供している。	・食事は外部の調理専門職員に委託し手作りしている。利用者はテーブルや食器拭きなど、できる範囲で手伝っている。栽培したトマトやキュウリが食卓に上がったり、おやつ作りやお弁当の会を開催したりして、食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表を活用して不足にならないよう注意している。食事量が落ちた方には主治医から栄養剤を処方していただいている。利用者各人にあった食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは自立している方にも良く磨く様声かけし、介助が必要な方も自分で磨いてから、仕上げを介助している。口腔ケアで指摘されたことは次回改善しているように努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用して排泄の間隔や排便の状況を把握している。排泄の始末が難しい方には、清潔保持のためにも、必ず介助に入っている。	・トイレでの排泄を基本としている。定時誘導のほか、一人ひとりの間隔やタイミングをみた支援をしている。 ・日々のスクワット運動でトイレの立ち上がり時の安定度が増した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう毎日の排便を確認している。動きが無い方には主治医から便秘薬や便を軟らかくする薬などを処方して頂きコントロールしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思や体調を確認して週2～3回気持ちよく入浴できるよう支援している。できる箇所は自分で洗い、洗髪して自立心を失わないようにしている。リラックスして入浴してもらえよう、入浴剤も使用したりしている。	・1階の浴室にリフト設備があり、介護度の高い利用者はユニットにこだわらず使用している。 ・好みのシャンプーや石鹸を使っている利用者もいる。 ・入浴拒否がある場合も柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせて自由に休息を取っていただいている。下肢の浮腫みで下肢を拳上して休んで頂き、症状の改善に努めている。昼夜逆転ならないように配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬しない様、与薬マニュアルの基本を守り実施している。薬剤師から処方薬の情報や服薬指導を受け、薬の知識を持つようにしている。個人の服薬の種類と副作用を記載した一覧表を作り、全員が情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いや塗り絵、歌、計算ドリル等個々に支援をしたりレクリエーションに取り入れている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩を晴れた日にお誘いして出かけている。 外泊や遠出には家族にお願いしているが、今はコロナウイルス禍の為自粛している。	・10月のテーマを「外気浴をしよう」とし、晴れた日は散歩に出るようにしている。偏りが出ないように「散歩実施表」をつけている。 ・家族の協力を得た遠出の外出や外食などはコロナ収束後の再開予定としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は自己管理できていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方や、家族からかかってきた電話に取り次ぐよう支援している。家族や親戚から手紙や葉書が届くことがあり、喜ばれるが声掛けするも返事を書くことはなさない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節に合わせたレイアウトをしている。手作りカレンダーは色塗りして居室に飾っている。フロアの室温と湿度、換気に注意し、テレビの音量調整や照明の明るさを調整して居心地の良い空間づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・共用空間はゆとりのある造りになっている。日々の清掃のほか、常に窓を開けての換気、各所の消毒に注意を払っている。 ・リビングや廊下には利用者で作った季節感のある作品や行事の写真などを展示している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたり、1人であるのが苦手な方はフロアでおしゃべりしたりテレビを見たりして時間を過ごしている。時々席替えをして気分転換や、摩擦を防ぐようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用している物を持ち込み見慣れた環境作りが出来るよう家族にもお勧めしている。家族の写真や手紙、仏壇など其々落ち着いた環境の中で過ごされている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはタンス、仏壇、家族の写真、自分の趣味の作品など馴染みのものを持ち込んでいる。 ・居室で一人で過ごしたい本人の気持ちも大切にしている。 ・居室担当職員が整理整頓、衣類の入れ替え、備品の補充などしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には名前を掲示し、トイレや浴室にも表示をだし、迷わない様にしてあります。トイレや浴室、居室内にコールを設置して用がある時は職員を呼べるようにしています。		

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜小机
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時にホームの理念を斉唱し実践に繋がるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域の情報を得るようにしています。今年はコロナ禍で交流が少なかったです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナウイルス禍の為外部からの面会が中止になっているので出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナウイルス禍の為か開催が出来なく報告を郵送して、意見を手紙で頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護担当者の訪問（面接）や受診時の相談、連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開き研修を行い、理解を深めている		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回虐待防止委員会を開いて研修を行ない皆で意見を言い合い理解を深めている。又申し送りの時に虐待ゼロへの行動指針を読み上げて意味を理解して		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されてる方がいらっしゃり、実践で学ぶ機会が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は管理者が行い、十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月に運営推進会議と家族会を開催し、家族の意見や要望を伺い、運営に反映させるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の際や日常的にも意見や提案があれば聞いてもらっている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行い職員の努力や勤務状態を把握している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を設け、誰でも参加できるようにしている。外部の研修も回覧でまわし、学びやすい環境を得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市高齢者グループホーム連絡会に入会して、連絡会や研修に参加している。小机地域のグループホームとも情報共有を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族の要望を良く聞き、不安なく生活できる様項目をケアプランに挙げ、職員で共有したサービスに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の段階で管理者、職員が本人・家族から良く話を聞き、入居後も不安なく過ごせる様ケアプランにも対策を挙げて職員間で共有した援助が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の話を良く聞き、暫定プランにニーズを盛り込み、職員が共通した対応が出来るよう努めている。必要に応じ治療院のマッサージやリハビリなどを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけ自分でやって頂く様声掛けし、お手伝いや会話を通じて生活を共に出来るようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流を深め、本人・家族・職員が理解し合い、相互に協力し合える様努めている。毎月の一言通信でも本人の様子を正確に伝え、協力を促している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類との外出や日帰り帰宅、遠方旅行などを支援している。外出できない方は面会の機会が多く持てる様家族に働きかける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が仲良く生活できる様フロアの席を時々かえたり、同じ趣味の方と一緒に作品を作り上げる事が出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされる相談には誠意を持って対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを理解し、不安の解消に努め、必要な時は家族に伝えて協力を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境、家族環境などを把握し、ケアプランに繋げていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録は詳しく記載し、その情報を職員が把握することによって、個別ケアに繋げていく。又申し送りによって一日の情報を把握し継続した対応に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時、モニタリングやアセスメント、職員間のカンファレンスを行い、本人・家族の希望を聞き取り新たなニーズを引き出す様にする。その結果生活に即したプランを立てる事が出来ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や医療連絡帳等に記載されている情報を共有し、実践から見えてくる事項をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに合わせて、訪問リハビリや治療院のマッサージなどを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用や地域ケアプラザの利用、地域行事へ参加したり、散歩の時商店街で買い物したりしている。又地元の美容院にパーマや髪染めにお連れしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は全入居者が利用している。内科医と歯科医の診察が月2回あり、異変時には24時間オンコールが可能なので、適切な相談と指示が受けられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携室の看護師が週1回健康管理を行い、入居者の状態を診てくれている。連絡ノートに看護師・職員が状態を記入し互いに情報を共有できるようにしている。看護師の判断で医療関係者に連絡、相談も行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホーム主治医から情報提供書を、ホームからはサマリーを提供し、入院中の治療に役立てている。見舞い時病院側からの情報がもらえる時は退院の時期などの相談や、退院後の相談など頂く様にしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を希望されるかどうか家族会などで度々取り上げて、重度化した場合の家族の考えをお聞きしている。看取り介護に入られた方の家族とは同意書を取り交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応はマニュアル化されていて、職員全員が理解している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間想定で避難訓練を行っています。毎月1回水害に備えてミニ水害訓練を行い、物品や持ち物等の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議などの時に、接遇の大切さを認識し直している。言葉遣いや態度など、常に自覚し職員が互いに注意し合える様努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や会話やお互いの信頼関係中から気持ちを理解できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人一人のペースを大切にし、傾聴することで理解を深め、沿える事には応じて支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方は好きなようにして頂き、出来ない方は職員が支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人一人の食事内容を大事にして見た目や、食べ易さ等プランに挙げて行く。年齢が進むにつれ、口腔内の状態も変化していくため、注意していかなければならない。食器拭き等家事手伝いも協力して頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表で確認し、一日分の不足が無いようにする。食べる力が低下した方にはミキサー食など適した食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きは必ず行う様になっている。自立している方以外は介助して口腔内の清潔保持に努めている。歯科衛生士による口腔ケアで指摘されたことは改善する様努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間オムツの方も昼間は出来るだけリハパンを使用し、トイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足や運動不足に気を付けそれでも難しい時は医師と相談し処方薬を頂いています。牛乳を毎日飲んで頂いてなるべく自然の排便を務めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご自分で出抑来ることはして頂き、週2～3回入浴されている。入浴中は1対1の介護なので、ゆつくりとお話しながらリラックスして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう注意しながら本人の希望で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から各入居者の処方薬について説明と服薬指導を受けている。連絡帳等に注意事項を書き入れ、職員全員が情報を共有している。誤薬をしないよう与薬管理マニュアルの基本を必ず守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が好きな方や脳トレのようなパズルを解くのが好きな方等、個別に対応している。月1回趣味のクラブを開催し、1階2階の方達の交流を図りながら楽しみを増やす様に支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍の為外出ができません。天気が良いときは散歩に少しの時間ですが出ています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は自己管理できていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されればいつでも家族に電話をかけて取り次いでいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を重視し、居室や共有部は毎日掃除を行っている。適切な室温の管理に努め、空気の入替えにも注意している。トイレの臭いや汚れにも気を配り、気持ち良い環境づくりに努めている。季節感あるフロアにするようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたい方は自由に過ごして頂いている。フロアで仲いい方とお話ししたりテレビを見たり歌を唄われて過ごされてます。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真や置物などを居室に飾り、椅子やテーブル、テレビを居室に置いて好みのお部屋にされています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違えない様にドアの所に名前を付け、トイレやふろ場にも印をつけて場所が分かるようにしている。廊下には障害物を置かないよう安全にも配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
みんなの家・横浜小机

作成日 令和3年11月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナ禍の為、面会や家族会もまだ再開できない状態でアンケートも昨年はあまり実施できない状況でした。	家族の意見や要望などアンケートを定期的に送り、運営に反映させていく。	定期的に連絡をとり、意見や要望を伺い、その他にアンケートなど実施して、全体会議の時に皆で共有して運営させていく。面会が出来るようになったら、家族会を再開していきたい。	1年間
2	35	飲料水や食料品の備蓄が賞味期限が切れていて、新しく購入ができていない状況でした。	備蓄の賞味期限などの管理表を作り直し、期限が切れるまでに新しく用意しておく。	賞味期限のリストを分かりやすく作り直し、わかりやすい所に保管し定期的にチェックをして、期限切れのないようにし3日分程度を確保する。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。